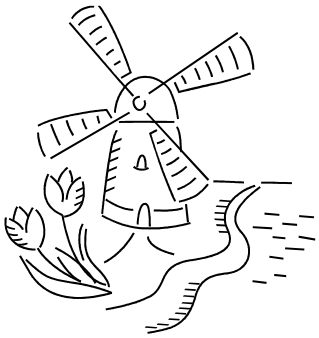
女と男グッドパートナー

いきいき通信

Vol.2

■編集・発行　湖南市男女共同参画リポーター・湖南市人権政策課　■発行日　平成19年(2007年)2月　1日

～　と　も　に　輝　い　て　湖　南　～



写真「湖南市男女共同参画社会を考える市民のつどい
～ともに輝いて湖南～」 平成18年12月16日(土)

インタビュー　～ともに輝いて活き活きと～

◆㈱サンエー　荒川節子さん

㈱サンエーで管理職としてがんばっている荒川節子さん。以前は業界紙関係の仕事をしていましたが、両親との同居を機に、正社員としての雇用を条件に仕事を探し、平成10年に入社。40歳をすぎてからの転職でした。

㈱サンエー　ビジネスセンター主任
荒川節子さん

㈱サンエーは倉庫、運輸を主体とした物流総合事業の会社で、業務は直接荷物を取り扱う現業の分野と事務の分野に二分されます。事務は荷物の入庫、出庫、在庫管理、配車管理、総務、経理を扱い、これらはビジネスセンターとして位置づけられ、女性4人で担当しています。その主任（一般的にいう課長）が荒川さんで、事務関係全般、主に総務・経理の仕事をしています。

上司――、特に社長の男女共同参画に対する理解の深さに助けられ、仕事に意欲を持つことができ、面白さと探究心でみたされながら、日々、新鮮な気持ちで仕事に臨んでいるという荒川さん。ただ、女性の活性化に理解を示してくれる会社に感謝しながらも、女性だということで賃金格差があり、指示系統でも、まだまだ男性優位の意識は残っていると感じています。

それでも、物流の仕事は働く女性が少ない分野で、地味な職種ではあるものの、社会的にも重要な役割を担っており、これからも仕事に力を注ぐことで、さらに社会に貢献していきたいと、荒川さんは強い気持ちを持っています。

「家族の存在は大きな支えとなり、仕事にも打ち込むことができ、感謝しています。仕事は好きですが、家庭を持っていると家事や子育てにも時間が必要で、ある程度の時間になると仕事が残っていても帰宅しなければならないという後ろめたさや悔しさを感じています。が、家庭でも100％でありたい」そう答える荒川さんの笑顔は、とても晴れやかです。

「今後も新しい知識や仕事に熱意を持って、会社や自分自身の存在価値を高め、社会に貢献できたら……」

「男性、女性、強い人、弱い人、全ての人が働きやすい環境で、女性だから、動きが鈍いからと差別されることなく、それぞれが敬い助け合いながら働ける居心地の良い職場になるよう努力したい」荒川さんの締めくくりの言葉は、頼もしいものでした。

荒川さん、ありがとうございました。第二、第三、そして、たくさんの荒川さんが育ってくれることを楽しみにしています。

◆甲西リハビリ病院　男性看護師

大橋千尋さん
中村幸平さん

―この仕事につこうと思ったきっかけは

中村　高校時代に真剣に考え、人とかかわる仕事がしたい。人手の不足する、特に男手の足りない職業にどんなものがあるか、そのなかで男しかできない部分を担う仕事内容ということで、看護学校に行くことを決めた。4月からこの仕事についたばかり。

大橋　悩みに悩み、かなり時間がかかったが、やりがいのある仕事をということで決めた。「人とかかわる仕事がしてみたい」のと医療に興味があった。この2つを併せたうえで仕事を選ぶとき、看護師という仕事を選択した。この仕事について8年目になる。

―この仕事についてよかったことは

中村　新人でもあるので責任感を持って日々勉強しながら臨んでいる。患者さんから「ありがとう」の声をかけ

てもらうと、その一言でやりがいを感じ、疲れもとんでしまう。

大橋　人の命をあずかるやりがいのある仕事である。責任感と緊張感を常に持ち、その意識でがんばっている。

中村　高齢者とかかわる生活を経験したことがなかったが、いろんな年齢層の方とかかわれて、人生経験を聴いたり、高齢者の考え方を聴いたりで視野が広がりよかった。

大橋　人と人とのかかわりのなかで仕事をすることにより信頼関係が築け、この仕事をする男性ということで認められにくいなかで認めてもらえてよかった。

―仕事上で、男性ということで困ったことや苦労したことは

大橋　男性看護師に対する受け入れ態勢が整っていないので受け入れる側（病院）に抵抗感があり、特別視され、「男性だから任せられない仕事だ」と決めつける感じだった。最初に就職した病院では、若い女性の入院患者の担当はさせられないなどで仕事をさせてもらえず、他の人に負担をかけてしまうことが多かった。自分がもどかしく、看護師としては男性でも女性でも立場は同じではないかと感じながら仕事をした。

また、患者にも受け入れられにくく目立った存在となり、やっている仕事に対する正しい評価がなかなかしてもらえない。人とのかかわりを大切にすることを目的としてきたので、今日までがんばれたかなと思う。ここの病院では受け入れ態勢が十分で働きやすい。患者との間でも信頼関係ができ、受け入れてもらえると、1人の看護師として認められた思いでうれしい。

女性患者の排泄、入浴の介助には特に配慮している。ここの病院には各フロアに男性スタッフが4～5人いる。患者にかかわる仕事をする男性職員が何人もいるので、自分たちもすんなり受け入れてもらえている。1人だけだとストレスも多くなる。まず、男性看護師がここにいることを認めてもらうことが必要だと思う。

―男性が少ない分野の仕事だと思いますが、どのように感じますか

大橋　患者に対してスタッフ（※看護師のこと）は、そういう意識を持って接していることはない。スタッフ同士では、自分たちを男性の看護師と特に意識してくれてはいない。2人男性看護師がいることについては、同じ職場の同僚として接してくれている。男女看護師が同じ仕事をしていては認められない。スタッフ仲間とコミュニケーションをとりながら、自分にできることが何であるか見出さなければならない。充分な仕事ができてもできてなくても目立つので、常に努力が必要だと思ってやってきた。そうして認めてもらえると、スタッフの1人として受け入れてもらえるのではないか。

甲西リハビリセンター看護師
中村幸平さん　　大橋千尋さん

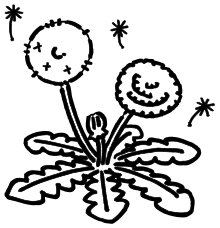
中村　ここは男性スタッフの多い病院なので、入ったとき抵抗感はなかった。新人なので仕事ができないとよく目立つ。男性にしかできない考え方、捉え方をできるだけ出すように差を出しながら、違った観点で仕事をするように意識して努力している。

大橋　求められるのは個性を出しながら、その人の持つ能力を生かしながら、「男性の視点」でものを見てほしいということ。みんな同じようにものを見つめているそのなかで、特色を出せたらいい。

―今後の目標は

中村　知識、技術において先輩から吸収し、教わり、自分を磨きたい。コミュニケーションのとりやすい患者が多いので話を聴き、話をしてリハビリの不安、退院への不安を除いてもらい、ストレスの軽減の手伝いをしたい。

大橋　スタッフが楽しく仕事のできる環境を整えるために、自分がどのようにかかわれるのかを常に頭において努力する。



最後に、この職場に男性が増えて、それが普通の状態であるようになればいいという2人のお言葉でした。

湖南市男女共同参画社会を考える市民のつどい　～ともに輝いて湖南～

平成18年12月16日(土)、市民学習交流センター(サンヒルズ甲西)で、「湖南市男女共同参画社会を考える市民のつどい～ともに輝いて湖南～」を開催し、約120人の参加者がありました。

メインのパネルディスカッションでは、さまざまな年代・立場の市民をパネリストとして迎え、飾らない率直な考えを語っていただきました。

湖南市男女共同参画社会を考える市民のつどい
～ともに輝いて湖南～

日時　平成１８年１２月１６日（土）
　　１３：３０～１５：２０
場所　市民学習交流センター（サンヒルズ甲西）
内容　ビデオ鑑賞「もっと素敵にハーモニー」
　　パネルディスカッション
　　パネリストは各学区から推薦された人と
　　新成人となる人の６人

― 自己紹介

I　鉄道勤務。70歳代の両親、妻と大学生と高校生の娘。

K　夫、24歳と18歳の息子。子どもが小学生の頃はパート、現在は正社員。自称コーラスも楽しむ陽気な主婦。

U　社会人2年目。リーダーサークル(おたまじゃくし)で活動中。

T　下田で喫茶店を15年。開店当初は忙しかったが、2～3年前から暇になったがんばっている。夫とおばあちゃんと子ども3人。内、1人は独立。

N　建築関係の仕事に従事。365日作業服を着ている感じ。妻と22歳の娘と大学2年と高校1年の息子。人生に遅れたので歳のわりに子どもは若いとか。

Y　京都から3年前に転入。64歳。妻を去年亡くし、母や父の介護、看護を経験。単身で家事はすべてやっている。京都に長女24歳、大阪に長男。

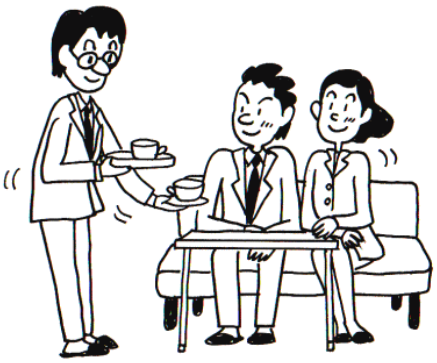
―ビデオ「もっと素敵にハーモニー」について

Y　介護と男女共同参画については、京都に60余年住んで定年までの7年間ほどサラリーマンと家事一切をやり、自分の父親をも看ながらやってきた。定年後、妻の母親が脳梗塞で倒れ、妻の介護もしてやりたいと思い湖南市に越してきたが、去年7月に妻も亡くした。

現在、子どもの食事の用意もしているが、地域になじむことが生活の基盤になると思い、4月から女性ばかりのボランティアに参入している。そういう活動から地域の中に入り込めたらと考え、現在は有意義にすごしている。

N　昔の時代は建設関係の仕事がら柱をまたいでもケガレル等と言われ、女性が参加しない職場だったので、今でも仕事場に女性が入るのを嫌う傾向がある。女性は女性にしかできないことをやればいいと思う。いろんな色が混じれば汚い色になってしまう。それぞれの世界でやればよい。それが今日までやってきた社会なのだから。

自由と言いながら勝手主義とも呼べる時代になったが、思いやりさえ失わなければ上手くいくと思う。介護休暇も大きい会社ならでのことで、小さい会社では休暇が取れるか否かさえ難しい。若いときにこういうことがわかるようなつどいがあればよかったと思う。



T　おばあちゃんがいるが元気なので楽しむことができるが、おばあちゃんが体調を崩すと現在の生活はできないと思う。仕事との両立も難しくなる。奥さんを亡くした人は大変だろうと思う。これからは協力しあうことが大切だ。

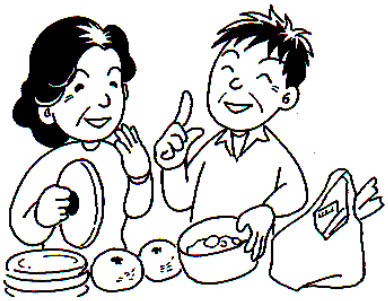
U　仕事をしていてお茶くみを言われたが、後輩の男性が「ぼくが入れます」と言ってくれたのに、女性の先輩には「ふつう女の人がするでしょ」と言われた。現在の仕事では介護休暇は取れそうにない環境だ。

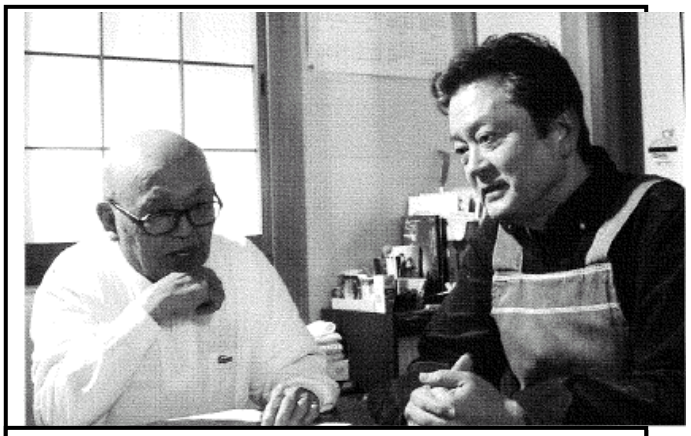
小学校の名簿では男と女がわかれ、中学校ではカバンも赤、青とわかれていたのに、現在では男女で色分けしなくなった。好きな色を選べて良いことだと思う。

K 以前は頭の古いおじさんが何か言っていると思うことにしていたが、今では主人がゴミ出しをしてくれるようになった。男の仕事だと分けてしまわないで、子どもたちも男だけど洗濯、お風呂、洗い物などをしてくれる。ある友だちは、娘には「旦那がゴミ出ししてくれると思ったらあかんよ」と言い、息子には「ゴミ出ししなさいよ」と言っている。

I ビデオのポイントが2つある。1つには会社での姿、2つめは家庭での仕事。次長はおかしい。女性社員にお茶くみやコピーを頼むのはおかしい。周囲が社員を育てないといけない。

各家庭には夫婦間で許容範囲の違いがある。自分ではよくやっていると思っていても、相手にとっては満足していない場合もある。役割分担はそれぞれの家庭で違うものだと思う。





◆「もっと素敵にハーモニー」あらすじ◆

仕事一筋で家庭をかえりみない博。家のことや地域のことは妻に任せっきり。子どもとの会話もない状態に家族の不満がつのる。また、その博の思い込みや行動が会社でも不協和音を生じ始めさせている。

そんな時、博の父・清一が怪我をした。博はしぶしぶ介護休業を取得して父の世話をすることになった。博と同じく仕事一徹だった父・清一だが意外にも地域で顔が広いことに驚かされる。父の変わりようと、介護休業中に出会った人たちの、イキイキとした生活ぶりに触れ、やがて博の意識と行動に変化が見え始める。

企画（滋賀県立男女共同参画センター／G-NET しが）

―男女共同参画とはどういうものか？

K 男だからとか女だからとかという考え方はマイナスだと思う。会社で、一人でバリバリ仕事をこなしていた人が転出して、残った女性が仕事を覚え、がんばってやっていたが、その後、若い男性が資格を取ると、女性は遠慮して一歩引いてしまったりする。洗い物くらいは男性でもできるんじゃないかと思う。

U 小学生の男の子でも「女の子に任せるわ」と言ってしまう子もいる。食べたあとは、みんなで片付けることが好ましい。小さな頃から男女共同参画について学ぶべき。以前は、営業マンといえば男性ばかりだったが、最近は女性もセールスに出かけるようになった。自分もセールスに出てみたい。

T 会社勤めはしたことがない。男は仕事さえしていたらよいので楽だと思う。女は子育てや家事など大変だ。でも、肝心なところでは男がやってくれる。これからは男も女もできることをすればよい。

N 各家庭がそれぞれ上手くまとまれば良いと思うようになった。収入を2人で計ればよい。今さら男が、女がではなく、男も女も同じようなものだから各家庭内がうまく進めばよい。

Y 京都に住んでいたとき、女性社員たちは街路樹のそうじをしていた。社内のそうじも女性たちがやっていて「定時になっても女性社員たちは机の前に座られへん」と言われ、それからは外のそうじは男性がするようになった。職場でもギクシャクしない協力が必要だ。

前は夕食の買い物をするのにネクタイをして買い物カゴを持つのは抵抗があってできなくて、一度家に帰って着替えをしてから出かけたが、時間のロスも多くて困った。今は何の違和感もなくできる。スーパーでも若い男の人が買い物をしている時代になった。昔は時間の無駄と思いつつ、体裁を考えていた。

I 考え方を高く持たないと…。鉄道の仕事（教育）のなかで男、女が仕事をしているからと言うのではなく、女が涙を流すことがあってもしっかりと受け止めてほしい。男と女しかいないので「男らしさ」「女らしさ」というのは、個人的には残してほしい。「らしさ」は大事だが、「らしさ」の正しい認識が大切だと思う。はきちがえないことが大事だ。

―大事にしたい「らしさ」とは？この仕事は男しかできない、繊細な部分は女しかできないという部分とか、力と高さ、つまり能力を活かせる、男と女としてではなく個々の持っている力を発揮できることを大切にしていけばよいと思われることは？

大きな会社なら休みが取れるが絵空事でしかない人もいる。今後、介護が必要になったとき仕事は続けていけるか？仕事はしていたが、家のことをしなければならなくなったとき、反対に収入を得るため働かなければならなくなったときもあるがどうですか？

N　蓄えをしなければならないが、蓄えができなかったときのため、若いときから―できれば幼児、小学生のときから教育して考えるべきだ。

Y　80歳の義理の父に「できることがあったら言ってや」と言ったけど、18日間癌で入院し、手術をして100％大丈夫で「手伝うぞ」と言ったが、自分が病気になってしまった。人生何が起こるかわからない。

妻の代わりにボランティアに出ているが、独りで生活はできない。地域の人たちの力が大事だと思う。子ども見守隊に月2回出て声かけをしている。自分も地域の人に声をかけてもらえるように手伝いたいと思う。

I　生活の基盤が崩れたら大変だと思う。今後のことを考えるとヘルパーの充実などを希望する。

K　会社勤めをしているが月末は忙しくて、不幸があっても休めないほどの忙しさなので、休みを取ったとき代わりに仕事をしてもらえる体制があればよい。家庭でもヘルパーさんがいて家事をやってくれればいうことはない。

U　男女共同参画の勉強をする機会があればよい。初めての参加だが、もっと大勢の人に参加してほしい。

T　デイ・サービスが、ある年齢になったら受けられたり、入居できたりするシステムにしてほしい。

―最後に一言。これから？

I　今夜、帰って夕食つくります。

K　ひとつの仕事をしてこなくて「女の子やなあ」と言われたが、男女関係ない意識改革をめざす。

U　この日の参加を喜んでいます。

T　主人に家事を頼む。

N　時間がもっとあれば、もっと上手く言えたかも……。

Y　京都から越して現在の新興住宅で、何でもやりやすい環境だなあと思う。

（了）

あとがき

男女共同参画リポーターは、地域に根ざしたまちづくりを進めるため設置されています。
任期は1年。市内に在住か在勤されている20歳以上の人で、男女共同参画社会について興味を持ち、意欲を持って活動できる人ならどなたでも歓迎です。主な活動は「市民のつどい」の開催や新聞などの発行です。

男女共同参画リポーター

黄之瀬節子
濱田みね子
中森静恵
薮　重勝
多田道子

みなさんは男女共同参画社会に対して、どのようなイメージをお持ちですか？男女共同参画の「カタチ」はさまざまです。
大切なことは男女がともに相手の人権を尊重すること。互いを対等なパートナーとして認め合い、喜びも責任もわかちあって、ともにやさしく支えあうことではないでしょうか。

「女と男グッドパートナー　いきいき通信」 Vol. 2
発　行　日　平成19年（2007年）2月　1日
編集・発行　湖南市男女共同参画リポーター
湖南市人権政策課
連　絡　先　〒520－3288
湖南市中央一丁目1番地
TEL　0748－71－2354
FAX　0748－72－2201